

日 7 2

第六十師田輜重隊 略

年月日	概
四、三	才一中隊及才二中隊（總員編成定員百三十五名） 近江輜重兵團隊に於て編成完結す。
四、三	本部（定員二三名）但隊附佐官一欠）才三中隊（舟艇編成定員百一四名） 中華民口江蘇省吳縣蘇州平門に於て獨立混成才十旅團才十五師團よりの基幹 人員を以て編成完結す。尔後蘇州地区警備に任ず。
四、二四	陸軍少佐富沢謙政長として輜重兵學校より着任す。
五、一	才三中隊東京を出發す。
五、二〇	蘇州平門兵團より蘇州留隊兵營へ転送す。
五、二五	才一、二中隊蘇州へ到着す。
九、二九	田島中尉以下混成才中隊太湖東南地区才二期清鄉工作参加のため出發す。
三、三一	隊長富沢少佐輜重兵才一中隊へ転送し陸軍少佐、瀨戸末男（獨立自動車三三

概 要

(101)

2087

大隊長(隊長)に補せらる。

昭六、一八

瀬戸少佐着任す。

三五

昭一七年度徴集役兵百七名着隊す。

八二

瀬戸少佐中支那野戦自動車隊へ転送し陸軍少佐平田忠夫(昭五自動車隊六六大隊長)隊長に補せらる。

八一三

平田少佐着任す。

昭五、二四

昭一八年徴集兼現徴兵七十五名朝鮮臨時特別志願兵四九名着隊す。

三一〇

昭三中队長多賀大尉以下主力湘桂作戦参加のため昭二船舶輸送司令部へ配属せらる。出発す。

六二〇

山口中尉以下百五十名昭三師団より転入す。

七三〇

福岡大尉以下八十七名昭十七師団より転入す。

昭五、六一四

昭一九年度徴集現徴兵百六名着隊す。

一三〇

仲島軍曹以下六四名昭四十師団より転入す。

二二五

英歳中尉以下十四名昭三三師団兵器勤務隊へ神尾曹長以下十八名独立警備隊

三二八	立大隊へ転属す。 小倉伍長以下五七名ヲ六十師団迫惠砲隊へ、森本軍曹以下九三名ヲ六十師団工兵隊へ転属す。
三一〇	昭言度現地徴集現役兵四〇名入營す。
三一五	飯田妥長以下四〇名ヲ一五野戦砲空補給隊へ転属す。
三一六	此一七年太湖東南地区ヲ二期清郷工作以來差出しありたる（被陥區内隊兵力に要置あり）兵力集結す。
三二六	佐藤准尉以下五五名中支那野戦兵器廠へ小玉隊医伍長以下三六名巨港ヲ二十大隊へ転属す。
四一七	白石中尉以下三名本土兵備要員として西郷軍管区へ転属す。
八七五	飯島中尉以下七五名紅蘇省常熟県常熟に於て築城を突進す。
八七六	紅林中尉以下六〇名常熟に於て築城資材輸送に任ず。
八七七	
八一四	平和衣服に對する大規模突進せる。

(123)

九二	傳戰隊定休戦條約成立す
九七	丸山太尉以下五名
百一四	上野准尉以下九五名
百二九	大田上尉兵以下四名
百一	武裝解除せらる
	軍需接收開始さる
百七	蘇州留園尋路兵營より蘇州より蘇州大馬路兵營へ師田通信隊兵營へ転属す
二一〇	紅林大尉以下七六名才六〇師田療養隊へ転属す
二一七	当舎軍曹以下一一一名才六十師田司令部へ転属す
二二五	上海乗船のため蘇州を出発す
三一	上海へ乗船す
四五	上海港出帆
四一	佐世保港上陸
	同日の兵力区分表の如し
	総員 八九二名

夫々才二船舶輸送司令部漢口支部へ  
転属す



第六〇師田通信隊畧歴

年月日	概要
<p>昭三、四二〇 (編成)</p>	<p>四月一日軍令陸甲才八号に依り独立混成才十一旅田通信隊に復員を令せられ才六十師田通信隊編成下令四月二十日編成完結す。</p> <p>一編成</p> <p>通信隊長 陸軍少佐 梅北兼光 副官 陸軍中尉 金子惣一</p> <p>本隊及有線無線の二々中隊編成</p> <p>有線 中隊長 陸軍中尉 西川卅男 無線 中隊長 陸軍中尉 末永豊</p> <p>三々小隊編成</p> <p>二編成完結以來師田の主任務たる消通工役の爲師田警備地区各部隊間の通信</p>

(26)

2092

支内 29

連絡及捕獲 討伐に從事す。

四三八 有線中隊矢内少尉以下五小隊無錫西方地区才二次肅清討伐に参加す。

五八八 無線中隊淺井中尉以下三小隊(三ヶ分隊)独立歩兵才四十三大隊に配属  
約二十日向南滿地区の肅清討伐に参加す。

七 無線中隊多喜見中尉以下三五名(四ヶ分隊)

九 (討伐) 歩兵才五五中隊司令官に配属約二十日向太湖東南方肅清討伐に参加す。

九 有線中隊矢内少尉以下五小隊(約五七名)滿州一官民地、区隊設作兼  
を実施す。

九 (作兼) 独立混成才二中隊中隊要員として無線手一三名輸出す。

九 (輸出) 才一次、補充兵田中義則以下三三名入隊す。

九 (補充兵) 有線中隊中富少尉以下五小隊江北區隊設作兼を実施す。

四六一 (作兼) 現役兵腰塚武則以下九名入隊す。

三六 (留美入隊)

四、八 (討伐)	有線中隊矢内中尉以下一ヶ小隊松江地区探察作業を実施す。 無線中隊多喜少尉以下約四〇名(四ヶ分隊)孤立歩兵百十四、大隊に既属 二十日尚江北地区清野開演計に参加す。
四三 防空通 信用 格)	上海防空通信所との間に通信網を構築及整備通信を実施する傍ら防空通信に任 事
七三 無線通 信網松 張)	情報放棄の爲南通に情報所を崩壊す之為 師団司令部に新に之分隊を派遣し警備防空情報通信に任事
七	才大田師団及才大丑師団編成要員として無線手三三名転出す
七二四 (補充兵 入隊)	才二大補充兵村廣勇以下約四〇名入隊す
九三三	部隊長陸軍少佐梅北兼光、北支方面軍司令部附に補せらる。 新部隊長陸軍少佐 森 兼太
九三七 (作戦)	歩兵才一三六聯隊より若徒す 無線中隊樋口屋曹以下の三〇名(三ヶ分隊)



昭五、六、九

(作業)

一、一七

(補充兵入隊)

一、二二

(編出)

二、六

(補充兵入隊)

七、八

(補充兵入隊)

八、六

(補充兵入隊)

九、二

歩兵カヲカ田司令部に配属三月間本總作戦に参加す。

有線中隊の三小隊を以て江北地区及自六張溝鎮築城作業を実施す。

カ三次補充兵栗原敏之助以下三一名入隊す。

中曹少尉以下の八名並立混成カ大被団編成要員として戦出す。

現役兵鈴木隆以下の八名入隊す。

カ四次補充兵若海洪以下三三名入隊す。

無線中隊長陸軍大尉末永豊カ十一軍司令部附に補せらる。

後任として陸軍大尉柳田秀夫、八月六日着任す。

カ五次補充兵三宅義治以下三九名入隊す。

有線中隊鴨志田少尉以下三小隊、自六、常州地区の補修作業を実施す。

有線中隊鴨志田少尉以下三小隊、一月下旬より約三月間南浜地区築城作業を実施す。

昭三、一、一三  
(初年兵入隊)

二月  
(作業)

三、二八  
(善出)

五  
(作業)

六月  
八月  
(兼修)

八、一四  
(終修)

昭三、三

現役兵手塚壽光以下百〇三名入隊す。

有線中隊神田准尉以下五小隊木濱船附近架設作業を実施す。

阿部中尉以下四八名歩兵ヲ五小隊團司令部及独立警備隊五、六大隊編成要員として振出す。

有線中隊神田准尉以下五小隊浪港口天橋鎮附近の架設作業を実施す。

部隊主力を以て常熟附近陣地の通信網及築城を実施中。

停戦の詔書発表せり以單事行動を終る。

三、六蘇州出発 三、七上海乗船 三、三一上海出帆

三、二五博多港上陸 同日 柳田大尉以下三〇六名隊隊召集を解散す。

第六十師団野戦病院署

年月日	概要
昭七、四八	<p>冠野砲兵聯隊補充隊に於て編成完結、          部隊名、第六十師団野戦病院          (長 陸軍少佐 石原正巳)          編成人員増設三三名(長を含む)          准士官 四二名 兵三八四名 計三九七名          下士官          支那派遣の岸屯管出航          守呂港出航          釜山港上陸          鮮南國境通過          満友、          江蘇省武進県常州到着          南浦惠者療養所開設          常州に於て野戦病院開設</p>
九三	
六一七	
五二二	
五二一	
五一九	
六一五	
五一一	
五一一	

(111)

2097

昭六二五	蘇州にオニ半部崩散 蘇州作戦参加の爲一部出発
四八	阜寧患者療養所崩散
四一〇	蘇淮海戦終了参加者帰隊
七一五	南匯患者療養所崩散
八、九	阜寧患者療養所 蘇州オニ半部崩散
一三三三	主力安徽省安慶に移駐の爲常州出発
一三三四	野戦病院崩散、常州患者療養所崩散
三三九	安慶到着同日オニ半部十四師団長の指揮下に入る
一三三一	野戦病院崩散 (オニ半部十四師団や四野戦病院より業務継承)
五、一四	彭沢患者療養所崩散
六七	大橋患者

一三五	独立歩兵才大旅団長の指揮下に入る。	
七二一	野戦患者療養所附設	
四三三、三二六	独立歩兵才大旅団長の指揮に脱し才六十師団長の指揮下に入る。 大田建彦療養所前領	
三三一	甯州に現駐の島安慶出発（野戦病院附設）	
三一一	甯州到着野戦病院附設	
二一三	常駐患者療養所附設	
七一五	部隊長更迭	
	百戦才六十師団野戦病院長	陸軍大医少佐 石原正巳
	新設附才一七四兵站病院附	
	百戦才三三三電信隊附	
	新設才六十師団野戦病院長	陸軍大医少佐 室田義雄
八一九	常駐患者療養所附設	
九一五	野戦病院	
六一六	甯州兼中の島甯州出発	

九、一七	蘇州到着
九、一八	野戦病院開設 中百七十兵站病院取扱部分院より業務継承
一〇、三〇	野戦病院閉鎖
昭三、三、二五	部隊長更迭
	佐藤 中六十師団野戦病院院長
	陸軍大臣 佐
	宮田 義雄
	新藤 中百七十兵站病院附
	酒田 中六十師団野戦病院附
	" 大尉
	吉岡 敏
	新毛 中六十師団野戦病院院長
昭三、三、二六	蘇州出發
二、二七	上海乗船
三、三一	上海出發
三、二五	青島港に上陸
	飯田大尉以下二九四名除隊召喚を解除す。

年月日	概
昭和三十四年	<p>第六十師団病馬隊編入</p> <p>軍令陸甲才八号に據り、独立混成旅団才十一旅団病馬隊人員を基幹とし、才六十師団病馬隊の編成を完結す。</p> <p>編成完結當時に於ける病馬隊長及編成人員左の如し。</p> <p>才六十師団病馬隊長 陸軍少将 松崎 守</p> <p>編成人員 病馬隊長以下四十八名</p> <p>師団病馬隊は編成完結と共に江蘇省吳淞蘇州城内三石河に位置し、才六十師団隷下指揮下部隊傷病馬の收療整備援助並に獣医資材の整理補給等に在ると共に、余白自前には在り、業務を継続す。</p> <p>四一九、三、一日迄の編成人員転補す。</p> <p>冠 陸軍少将 大尉 松崎 守</p> <p>補 湯田 基一</p>

(115)

2101

昭五七三一

左の通り表入す

ヲ十七師団輜重隊より陸軍伍長田中辰次以下十名

三一

左の通り病寫隊長進級す

陸軍醫大尉

湯田基一

任陸軍醫少佐

一三〇〇

左の通り表入す

ヲ二二師団より陸軍上等兵春藤定以下二十名

一三〇一

左の通り表入す

ヲ十一師団より陸軍二等兵大久保源一以下二〇名

一三〇二

左の通り表入す

病寫隊長

陸軍醫少佐

湯田基一

補ヲ六十五師団醫長部附

一三〇三

左の通り表入す

ヲ百三師団へ 陸軍醫大尉 佐々木恂次郎以下十六名

支外

(118)

1018

2102



甘受外記

昭三三九	左の届表入す
瀬才六十師田原馬敵長 陸軍少尉 離波 楠	
八一四 平和衣服に用する詔書漢字せらる。	
八一八 軍令陸甲才百一六号に據り全軍後員を命せらる	
九、二 待戦場規程戦條約成立す	
一〇、四 江蘇省吳縣蘇州城外才六〇師田原重隊内に殺駐す	
昭三、六二四	金川外才大〇師田原信隊内に殺駐す
〇二九	左の届り病再敵長既補す
	免 陸軍少尉大尉 離波 楠
	補 陸軍少尉少佐 大川 直順
二、一〇	左の届表入す
	独立歩兵才四六大隊より陸軍少尉 倉田義昌以下二六名
	才四七 歌医中尉 吉川秀成以下二五名
	才四八 小尉 松井茂雄以下二七名

(11)



病身敵復員者結時に於ける状況左の如し

内地帰還人員

六〇五

現地隊隊人員

二

死致人員

二

入院患者人員

一六

患蛋人員

二五

生死不明者人員

七

抑留（処刑）者人員

七

現地隊隊人員

四

復員完結す

第六一師団司令部累片

年月日

昭和三三

三三一

第六十一師団編成下令

編成完結す

編成部隊左の如し

第六十一師団司令部

歩兵百一連隊

歩兵百四九連隊

歩兵百五七連隊

師団工兵隊

通信隊

輜重隊

野戦病院

騎馬隊

六四一

師団は逐次東京出發師団司令部を以て四、一一 南京に到着 六十三甲の長

概

要

斗寺列に入り十五師団と交代南京周辺地区の警備に在す

師団司令部師団工兵隊師団通信隊師団輜重隊師団野戦病院師団疾疫隊は南京に歩兵百一連隊は豫東附近に歩兵百四九連隊は鎮江附近に歩兵百五七連隊は蕪湖附近にカク駐屯し南京防衛勤ふ並に南京周辺地区の治安確保等に任す其の同

配備の該更に件に百一連隊は益州附近百四九連隊は滁縣附近に撥駐し各々警備に任す

廣徳地区に於ける作戦及

南陵地区の作戦の后各々同地区周知を併せ警備せり

上海地区対水作戦準備のため臨次上海に兵力を移動し

南京周辺の警備任務を才一旅立警備隊に撥譲師団司令部は三、エロ南京出港

終

上海着

六、七

六九一〇  
百三一

五、四九  
五五

五、初頭

三、中旬

三、二一

2107

2108

(21)

6018

於 18. 3. 31 附致書の取巻

船田元中将 田中節 (PEE25部)

岩手縣大佐 山下 ( " 30部)

岩手 中佐 ( 37部)

岩手 中佐 青松中佐

101 連隊長 大佐 羽島 貞四郎 (26部)  
(引揚子(之)

149 " 新場 (27部)

159 " 南野外茂 起  
( 起 佳英)

現住市今市市柳海拳南  
4-2-61  
電0469-82-2820

加地退後第60部付  
56部退後12

2820

43. 4. 15 2820 408 5211

三井信託銀行

斗登列に入り中十五師団と交代南京周知地区の警備に在す

エロ 南京出巻

南京附近に現駐し

の治安確保を欠

に歩兵中百五七

出疲辱感は南京

2107

2108

中支四三

三二	三二	三二	三五	四一三	三五	四一	四一五	四二二	三二二
独立速射砲才二八大隊	迫撃砲隊	病馬隊	野戦病院	輜重隊	通信隊	才六一師団工兵隊	才四九連隊	歩兵才百一連隊	師団司令部

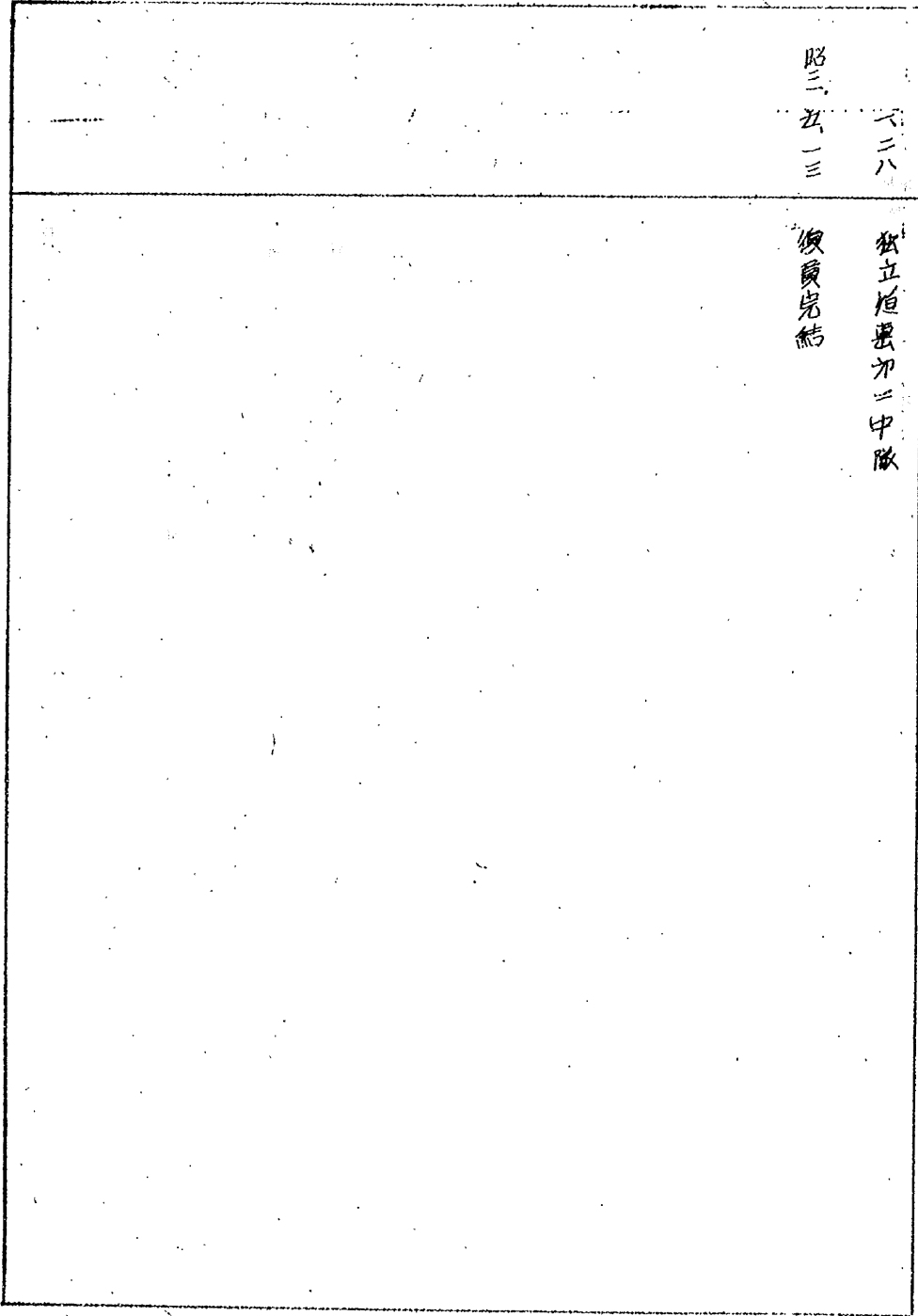
上海周知地区の警備に担任し治安の安定確保に任ずると共に対米作戦準備のため上海周知の兼攻に任じ概ね其の完遂と共に終戦となる。

復員完結左の如し

2013

(12)

2109



昭三、五、一三

六二八

復員完結

独立旭雲加三中队

(23)

2110



第六一師團司令部の一部（不四次帰還者）

隊長 坂田少佐 金川 敬次

年月日	概 要
四二六	金川少佐以下一六〇名（全員中口側被収軍等管理適用解除者）帰還の目的を以て上海江湾兼中區を出発、司令部と分離す。
四二一	金川少佐以下一六〇名（傷者九、下士官一七、兵一三〇、軍醫八）は輸送船（下）一〇一〇号に依り上海出航。
四二七	鹿島島上陸、異状なく夫々帰郷せり。
四二九	金川少佐、藤井曹長は遺骨率領及残務整理者となり、二日市復員本部に至り事務処理に任じ、一任務終了帰郷す。

(124)

2111

中支派遣第六師団司令部半部

勸告指揮官予備役陸軍大尉

木村

勝

年月日	概 要
昭三、四、一五	<p>一四、一〇上海吳淞沖三兵舎出發 全日一〇、一〇上海四市政府に集合 全一〇、一〇中國側の検査開始一〇、一〇終 了 同地に於て昼食の後一〇、一〇飯田橋橋上向い出發 一四、一〇輕便艇に便乗完了 一六、一〇出帆 三、一、一〇、一〇博多入港 一三、一〇上陸完了 一五、一〇上陸時の諸業務を完了 一六、一〇復員式實施終了後部隊解散す</p>

(25)

2112

第六一師團司令部ノ一部（ヲ六兵站勤務隊要員）

引率者 陸軍大尉 三 督 七 羅

年月日	概 要
昭三、三、三二	吳淞ヲ三兵舎に於ける兵站業務の引継完了
三、三二	軍整理終了ト共ニ上形命令ヲ受領す
三、三二	之より先ニ督大尉はヲ六兵站勤務隊要員一三三名の輸送指揮官を命ぜらる
二八	ヨハニリ上海市政府に集結を完了す
二九	上形地飯田棧橋に前進し直ちにヨカウストン号に上船せり歸は一四、〇〇
二九	たり、總輸送指揮官はヲ百十師團の北村少佐なり
一四、カ	一回カ、出帆当夜は吳淞沖に於て一泊す
三〇	早朝出帆一路北進す
四一	海上浪静かにして向華事故及く全員元氣旺盛
四一	〇九、三〇博多港に入港せり

四二

直ちに米軍の暗号受取を準備せるも都合により上陸は一日延期せらる。

一六、三〇厚生省職員の検診を受く

一九〇〇上陸開始

一九二〇上陸完了

一九五〇換収、換収を終了す。

一九七〇金銭給与、復員準備等に着手し

一九一〇諸手続は完全に終了す。

一九一五復員式挙行

一九三〇乗車準備を完了す

前隊は残りの整理者として、三幣大尉を残留し

岡崎中尉以下一三二名

一九三三港内可行列車に依り帰郷のため出発せし。

残りの整理者は一六、三〇陣羽出發自動貨車に依り、二日市に前進自らに業務に着

中  
文  
本  
抄

四  
八

手  
す  
を以て残公整理業務を完了す。

(128)

2115

第六一師団歩兵才百一連隊 隊丁

陸軍大佐 野村 懋

年月日	摘要
昭三、三一	<p>部隊の編成                      歩兵才百一連隊才三大隊主力                      才三大隊歩兵砲中隊の各一部</p> <p>編成完結日                      部隊長 陸軍大佐 野村 懋</p>
昭三、一四	<p>接防後の行動                      当該部隊終戦後、上海吳淞東中宮にありたるところ</p>
一八	<p>才二、一 笠原大尉以下九九九名</p>
一九	<p>才三梯団 酒井大尉以下四九〇名は先發せり</p>
	<p>才四、一 坂東大尉以下五九四名は、二一日、内地帰還の命を受け主</p>

中史の

35

い

い

昭三二二二  
一七

力と分商し左記人員を指揮し昭三二二二上海を出発せり  
現地残留軍隊長野村大佐以下ニハ名は上海吳淞カニ集中營に在りて内地  
帰還の準備を以しつあり

輸送指揮官 陸軍大尉 坂東輝 良

左記

五九四名

東部右の行動概要

一四三、榮盛丸に依り上海港出発

陸軍前海上陸

部隊を召集解除せしめると共に各人を各府県に帰郷せしめたり  
行動右異状なし

張勇整理者 昭三二月除隊の二七

陸軍主計部長 内山昌三郎

(130)

2117

歩兵第百一連隊 略

年月日	概 要
昭五七二五	軍令陸乙才十九号歩兵第百一連隊編成下令
八一五	東京都港区赤坂区六本木に於て編成完結
二二六	一ツ木所に駐營
一三四	加藤大佐宮中に参内し軍旗授受儀なる勅諭を賜う
昭七二二二〇	神奈川県川崎市瀬戸の口に駐營
六三一一	軍令陸甲才二二二号歩兵第百一連隊臨時編成改正下令
三二五	編成完結
四六	屯営出発
四一三	南京到着
五二	安徽省涇県に駐屯、同地附近の警備
七二五	安徽省涇州に駐屯同地附近の警備





昭三、一、九 “一、一、一 “一、一、一 “一、一、一	坂田少佐以下九冊八名 佐世保に於て除隊召集解除 笠島大尉以下九九七名 西井大尉 “四五六名 博多 坂東大尉 “五九四名 鹿児島に於て
--------------------------------------	---

(73)

2120

第六一師團歩兵才百一連隊要

陸軍大佐 野村 惣

年月日	概 要
<p>昭三、三、三一</p>	<p>歩兵才百一連隊才一大隊 彈藥行李班                  編成完結日                  部隊長 陸軍大佐 野村 惣                  乗船後の行動                  当該部隊は終戦後上海兵船集中營にありたる折                  内地帰還の命を受け主力と分離し左記人員を指揮し                  上海を出発せり                  新近指揮官 陸軍少佐 坂田寅夫                  左 記                  九六五名（LST 幾田一七名を含む）                  乗船後の行動</p>
<p>昭三、一、四</p>	
<p>昭三、一、六</p>	

伊支内 06

い

(134)

2121

昭三二六

一〇九

二〇一

米恥し、丁一八号に依り上海港出帆

佐世係上陸

同日部隊を召集解除せしめ

各人を各府界に帰郷せしめたり

其の他特別事項

上陸前米軍の要求に依り砲内如生及掃蕩勤務の存在者入員を殺害す

軍医將校 二名

如生下士官以下 一七名

掃蕩兵 三名

計 一七名

將校以下 九六五名乗船す

一七名砲内兵団

其の他輸送中乗取なし

歩兵才百四九 煙隊累厂

年月日	概要
昭五七二五	軍令陸乙才一九号に依り歩兵才百一九煙隊編成下令
八一五	歩兵才百四九連隊編成完結 (山梨県甲府市古府中町)
三、四	軍旗拜受
三、二五	一八三、三 軍令陸甲才ニニ号に依り編成下令
三、三一	編成完結(山梨県甲府市古府中町)
四七	中支隊捲の正め屯營(甲府)出発
四九	下州港出帆
四一三	鮮満口境(安東)通過
四一三	滿支口境(山海關)
四一六	江蘇省領江着

昭三三一九

八二五

三、三七

三、一〇

中支那江蘇省袁茹に親駐光号作最準備

に於て軍旗奉焼

内地帰還の爲上海出発

捕獲港上陸

復員完結

内地帰還時本隊と分離し一部部隊復員した路差は皆歸す

(127)

2124

第六十一師団工兵隊要

概 要

昭二六四一

東京に於て編成完結

	將	編		
七	校	下士官	兵	成
		二四	一五六	
		一八七	合計	表
		六	馬匹	
			摘要	

昭二六四一〇

渡支の爲内地出帆

四一〇

釜山上陸

四二六

山海關通過

四三〇

中支南京に到着

昭二六四三二  
昭二六四三五

南京に在りて同地附近の警備並に作業に従事

支外 37

(138)

2125

昭六四一六 七一八	鎮江地区警備
七一九	後駐のため鎮江出発
七、一〇	安徽省鳳陽県蚌埠着
昭六七、二〇 五、一九	蚌埠地区警備
六、一〇 五、三一	広徳作戦終加
五、二〇	後駐のため蚌埠出発
一、二〇	安徽省滁県着
一、二〇 三、一八	滁県地区警備
三、一九	第一三軍「光」号作戦準備のため滁県出発
三、二一	上海特別市江湾鎮蓋田日より同地附近の陳地構築及警備
八、二五	上海特別市、イ、に於て軍旗奉焼
三、三、七 三、一〇	内地帰還のため上海出発 揚子江上陸、復員完結 内地帰還時本隊と分離し一部々隊復員した。遺尸は省略す。

(29)

2126



歩兵才百五七連隊畧年

年月日	概 要
昭五、八一〇	軍令陸乙才ニ号に依り歩兵才百五七連隊
八一五	千葉原佐為に於て編成完結
三、四	軍旗拜受
天三、二五	軍令陸甲才七号に依り部隊改編下令
三、三〇	部隊改編完結
昭八、三一	軍令陸甲才ニ号に依り部隊臨時編成下令
三、三一	部隊臨時編成完結
四、三	中支那激戦の爲千葉原佐為出発
四、一二	中支那激戦省冀朔着同附 <sub>地</sub> の整備
九、一〇	廣徳作戦に参加
一、三一	南陵作戦に参加
四、九	
五、五	

(140)

2127



中文内 38

4

入 院	残 留 者	除隊 召喚 除者		區 分 階級	備 考
		現 地	内 地		
一	一	八	一〇	將 校	昭和三十二年 月 日 復員完結 上海に復駐 上海附近に於て光号作戦準備 停戦協定締結 部隊一部(棚橋中尉以下二六八名)内地帰還の爲上海出帆 博多港上陸 昭三二七 二一〇
五	一	五	一〇六	准 士官	
五七		二二	六五八	兵	
六三	二	三九	七七四	合 計	
	残務整理のため			備 考	

(42)

2129

	計	生死不明	死 亡
	二 一	/	一
	一 二 三	/	六
	七 七 五	/	三 八
	九 一 九	ナ シ	四 五

(123)

2130

第六十一師団輜重隊略歴

陸軍少佐 小川 梅次郎

年月日	概要
昭二八、四、九 四一〇	<p>編成完結状況</p> <p>編成担任部隊 近征輜重兵連隊補充隊</p> <p>編成地 東京</p> <p>編成才一日 昭二八、三、二六</p> <p>編成完結 " 四、一</p> <p>部隊の編成 本部隊及自動車二中队(馬中队一缺)</p> <p>馬中队一は輜重兵才三十四連隊より戦歴昭二八年四月二 五日南京に於て輜重隊長の指揮に入る。</p> <p>行動の概要</p> <p>東京出発</p> <p>下関港出帆</p>

(124)

2131

四一	金山上陸
四一三	安東通過
四一五	山海關通過
四一七	南京着
九一〇 一〇三〇	同日より南京附近の警備並輸送業務に従事 廣徳作戦に参加
一一一	兵が本部、馬中隊一、自動車中隊、計二〇〇名 尔后南京附近の警備並に輸送業務に従事
昭三三二	軍令陸甲が十八号に依り編成改正下令
四一	編成が一日
四一〇	編成完結 舟艇中隊一増加せらる 編成表省略
三一九	部隊後駐の湾南京出発

(45)

2132

三二〇	上海到着
四二一	同日より上海に在りて同地附近の警備並に輸送に従事
六一四	上海に在りて光号作戦準備（輸送並に察城）
六一四	待機詔書換発
六二五	復員下令
九二二	待機協定締結
一三三三	内地帰還の爲上海港出帆
昭三二一	鹿児島港上陸
	同日復員

昭三二一

第六一師田通信隊畧史

陸軍少佐 松原常雄

年月日	概 要
四五	谷山上陸
四四	下関港出帆
四三	近任歩兵才五連隊補充隊出隊
四一	行勅及日時
二三	編成完結
四三	軍令陸甲才二三号に依り勅員下令
二三	近任歩兵才五連隊補充隊に於て編成才一日
編成完結の状況	陸軍少佐 松原常雄
部隊長官氏名	才六十一師田通信隊長

(147)

2134



四七	辨滿國境通燭
四八	滿支國境通燭
四一	南京着同日より同地附近の警備
九一〇 百三二	本徳作戦参加
五 二二 二六	即漢附近新回軍討伐に参加
四九 五	南陵作戦参加
六三 七四	蕪山地区新回軍討伐に参加
略五 三二七	移駐の爲南京出發
三一八	上海着同日より光号作戦準備
八一四	停戦詔書發令
九二	停戦協定締結
一三三 六	内地帰還の爲上海港出帆
一三三 一	廣見島港上陸同日復員船碇

P 長外 39